



岩手県立盛岡峰南高等支援学校

～生きがいある豊かな生活の実現～

令和5年度 校内研究テーマ

新しい時代の「働く力」の組織的理解と育成・実践の充実 ～専門教科・寄宿舎生活をとおした取り組みから～

1 研究概要

今年度も、昨年、一昨年と同じ研究テーマで研究を進めた。今年度は、確かな「働く力」を身につける生徒を育成するために昨年度あがった課題を解決すべく各専門教科及び寄宿舎において以下の実践を行った。

- ① 専門教科「加工生産科・窯業班」「流通サービス科・事務班」「農産技術科・1年農業」「生活科学科・クリーニング班」の全校授業研究会の実施。
- ② 寄宿舎男子棟1階「ストレス解消方法」男子棟2階「余暇の充実」女子棟「体力づくり」の実践。
- ③ 就業体験実習評価票の集計の実施。
- ④ 授業参観アンケートの実施。

2 研究のまとめ（成果○と課題●）

〔1 研究概要〕にあげた項目順に成果と課題をあげる。

- ① ○教職員で各専門教科の取り組みや支援の工夫を共有することができた。特に、授業でペアやグループで行う場を設定することで、生徒が自ら考えて動く姿が見られることが分かった。また、学習内容、目標数の提示や目標の立案の仕方、作業内容の繰り返し、多様な経験、手順表やメモの活用が有効なことを確認した。
●授業実践の継続が必要である。
- ② ○職員間で情報を共有し、適宜支援方法を工夫しながら取り組むことができた。生徒は、活動への意欲や自ら考えて行動する姿が見られた。
●日常生活の中で生徒の実態に応じて必要な支援が必要である。
- ③ ○今までは、過年度の卒業生の集計で終わっていたが、今年度分の就業体験実習評価票をまとめ、専門教科ごとにグラフで示すことができた。また、本校生徒に身につけていると思われる力や不足していると思われる力が分かった。
●不足していると思われる力を今後身につけられるように実践を継続する。
- ④ ○所属以外の専門教科を授業参観することで、取り組みや工夫が参考になり、生徒の専門教科での実態把握ができ授業改善につながった。

【令和5年度 就業体験実習評価票集計結果】

身に付いていると思われる力	不足していると思われる力
・作業にあった服装・身だしなみができる (B) ・指示どおりに取り組むことができる (A) ・決まりを守ることができる (A)	・工夫して取り組むことができる (A) ・正確に作業することができる (A) ・注意を素直に聞くことができる (C)

※ () 内は以下の項目区分 A職業適性 B基本的労働習慣 C対人・コミュニケーションスキル
D日常生活管理・健康管理・自己コントロール